

# 葛川小中学校だより

葛川小・中学校 学校だより 令和3年 5月号 在籍児童・生徒数 38名 5月31日発行

## 小学校 1年生を迎える会 4/28



小学1年生は、8名の仲間が入学しました。この1年生に、楽しい思い出を作ってもらおうと、2年生から6年生が心を込めて準備してきました。とても温かい雰囲気、1年生もたいへん喜んでいました。

## 小中合同体育（リレー） 5/7,12



小中合同体育を実施しています。バトンパスの練習を、入学したばかりの小1から中3までの児童生徒が、チーム一丸となって行います。中学生が、小学校の低学年に優しく教える姿があちこちで見られ、合同で取り組むことのメリットを感じます。

## 避難訓練 5/12



土砂災害を想定して、小・中学校で避難訓練を行いました。大雨や台風など災害発生時に、どのように児童生徒の命を守るか、教職員の訓練でもあります。教室には、全員分のヘルメットがあります。日常的に訓練をして、いざという時に慌てず行動できるようにしています。子どもたちは、しっかり避難行動ができました。

## 中3 イカダ漕ぎ練習 5/11



中学3年生は、びわ湖イカダ旅の実施に向けて、イカダ漕ぎの練習を行いました。オーパルの指導員に教えてもらい、パイプでできたイカダを組み、パドルの漕ぎ方を学び、実際に琵琶湖に出て、特訓しました。イカダの上での体勢、パドルの角度、効率の良い漕ぎ方など、実際に体験してみると、たくさんの方が分かりました。この後、本番に向けて、パドルを使った練習が続きます。

## 小学校 体力テスト 5/14



小学校では、全校で体力テストを行いました。昨年の記録から伸びたことを嬉しそうに話す姿や、友だちにボールの投げ方を教える姿など、子どもたちの同士の関わりをたっぷり持つことができました。中学校は体育の授業の中で行っています。

## 6・7月の主な行事

- 6/4日(金) プール清掃  
7日(月) 集金日、学校評価委員会  
8日(火) スローガン会議  
10日(木) 学習参観(5校時)、○小：朗読会  
11日(金) 学校運営協議会、小中合同会議  
14日(月) ○中：専門委員会  
16日(水) ○小：久多校外学習  
17日(木) 歯科検診(全学年)  
○中：第1回進路説明会  
18日(金) 学校林活動、○中：第1回進路説明会  
22日(火) 学校林活動予備日  
23日(水) ○小：ゆきんこお話し会  
25日(金) ○小：3, 4年「やまのこ」学習  
28日(月) ○中：期末テスト  
29日(火) 地域清掃  
7/1日(木) 合同あいさつ運動  
2日(金) ○中：専門委員会  
5日(月) 集金日、学校公開日  
○小：交通安全教室  
6日(火) 小中合同会議  
9日(金) つなげる会  
15日(木) 期末懇談会  
16日(金) 給食終了、終業式、大掃除  
17日(土) ○中：市夏季ブロック大会  
18日(日) ○中：市夏季ブロック大会  
19日(月) 夏休み開始  
20日(火)～22日(水) ○中：3年びわ湖イカダ旅  
26日(月) 登校日(すいすい)  
28日(水) ○中：県夏季総体  
29日(木) 登校日(すいすい) ○中：県夏季総体  
30日(金) 学校運営協議会

(※予定が変更になる場合があります。)

## びわ湖ホール声楽アンサンブル出演者のコメント

5月11日に、「びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演」が本校で開催されましたが、指揮者として出演いただいた方が書かれたコメントを、承諾を得て、ここに全文を紹介します。

-----暖かなひと時-----

本日は学校巡回公演にお付き合いさせていただき、午前守山市、午後は津市の小学校を訪れた。津市はその面積が意外に広いことが知られているが、午後はその最北端に位置する葛川(かつらがわ)小学校での公演であった。

京都方面から大原を北に、滋賀からは堅田を西にそれぞれ向かうと「途中」という地名に合流する。さらに北へ向かうと葛川、やがて朽木村を経て近江高島、その先は湖北や小浜、若狭へと街道が通じている。古くから「鯖街道」として知られる国道367号線は、今の季節木々の緑と清流のせせら

ぎが美しい「癒しの道」である。私にとって、昨年のコロナ自粛期間以来、何度か訪れている「お気に入り」のコースでもある。小学校がある葛川は、古くから街道沿いにある集落であり、昔日の姿をそのまま留める雰囲気を残している。つい先日、集落の中心から少し離れた葛川坂下町に、古民家で蕎麦を供する店を訪ねたことがあった。限定でフレンチのコースも供するこの店は、まさに「隠れ家」に相応しい存在と言えるだろう。車内で検索して飛び込んで頂いた蕎麦は、偶然の出会いとは言え、これまでで三本の指に入る素晴らしい味わいであった。

実はこの葛川小学校、私は5年以上前に同じ巡回公演で訪れている。この公演で何う学校は、数が多いことから全てを記憶している訳ではないが、葛川小学校は、その立地と暖かい人情に感銘を受けてフェイスブックにも投稿を残している。今回、少しは周辺の地理も分かり、親しみを感じていたところなので、今日の再訪を心から楽しみにしていた。

途中別れから20分ほど、山あいをぬって走る国道のトンネルを幾つか超えると、ようやく校舎が視界に入る。中学校が隣接するこの小学校は、杉の木立に抱かれるように建ち、国道を挟んで清流にかかる橋を渡らねば行き着けない。全校児童が24名、各学年は数名ずつの小規模校である。児童数に対してそれなりの数の先生がおられ、子供たちとのきめ細かな日常が拝察される。規模から考えると様々な用途の教室や備品は充実しているように見受けられた。

いったいこの山あいの小学校で、20数人の仲間と毎日過ごす日常とはどのようなものなのだろう。いや、考えようによっては多くの人があいても、意味のある関係性など限られる中で、一人一人をしっかりと理解しあうことが出来て、また自らもその中で存在を確かめながら成長出来る環境の方が、何倍も幸せなことに違いない。学年を超えた親密な関係も垣間見えて、もはや自分には可能性のない彼らの日常にうらやましさを感じた。

学校に到着してから帰るまでのわずかな時間ではあったが、廊下をすれ違う彼らの表情から、このコミュニティの中で素直にすくすくと育っていることがうかがわれた。環境から推察して、見知らぬ人とのコンタクトが苦手なのかと思いきや、実際は全くその逆で、演奏に対するストレートな反応や、終了後バスへ見送りに集まる彼らには、街中の子供にはない人懐っこさと純粋さを感じた。

声の「響き」に反応する子供たちのアンテナは健在で、声の大きさと響きについて、はっきりとその聴き分けを出来るあたり、教えられたものというより感覚の鋭敏さに由来するものなのだろう。ここに音に対する本質的な気づきがある。

ソプラノの声の紹介の高音や、ソロのプログラムとして入っていた「オランピアのアリア」などに見せる彼らの反応は、非常に興味深いものであった。

演奏したメンバーにとって何よりものご褒美は、指揮者からの形だけの労いの言葉ではなく、子供たちの飾り気のない反応なのである。今回は私がこれまで経験した中でも最良の部類のリアクションが続き、メンバーは大いに励まされた。今回のような公演は、子供たちに感動を届けるという体をとってはいるものの、実は届けている側が、沢山の心のお土産を頂いているに違いない。

葛川の山あいには、美味なる蕎麦だけではない「三本の指」に入る大切な宝物があったのだ。